



ともしび

発行・城北地区社会福祉協議会(丸亀市大手町二丁目1番20号 丸亀市中央公民館 ☎24-1392)

城北校区人口
世帯数 3,165
人口 7,512人
男 3,538人
女 3,974人
65歳以上独居者 326人
(12月1日現在)



元気な声が秋空に響いた第一回ほくほくふれあいまつり
(城北小校庭で)

協力が美を結び盛会

第1回「ほくほくふれあいまつり」開く 競技、売店、作品展...

第一回ほくほくふれあいまつり(城北まつり)が十一月二十四日、城北小学校で開かれました。小春日和に恵まれ、たくさんの方が参加、盛会でした。片山市長をはじめ多くの来賓から「一回目としては上出来。若い人の協力ががこの校区よりも良い。まとまりがある地区だ」との評価を得ました。(2面に写真特集)

城北小校庭にはテントが十数張り並び、青年団や老人会などの団体が売店を出しました。売り上げは上々。

また、体育協会の会員が世話役となって運動会が行われ、まつりを一層盛り上げました。

幼児から高齢者まで多くの住民が参加して、元気いっぱい競技を展開。五百個用意した参加賞が不足するほど。夢くじ(福引)も人気を集め、用意した千枚のくじはすぐに売り切れ。米屋さんに米が当たるハプニングもありました。

体育館での作品展示会には精魂込めた作品が飾られ、訪れた人が熱心に見入っていました。

竹細工の実演、ロープ結び講習、健康相談のコーナーも人の輪が絶えませんでした。消防団員の実技には心強いものを感じさせました。

民協、地区社協による敬老の接待もまつりを一段と意義あるものになりました。

有地の買収交渉も続けられています。

連合自治会・建設推進委員会のメンバーが十一月七日、高松市仏生山公民館を見学しました。二階建ての公民館ということで、関心を持って見て回りました。以下に印象を簡単に記します。

高齢者のことを考えると、当然エレベーターが必要だが、同公民館にはない。本年度予算で新設すること。これらの経費や維持費などを考えると、城北公民館は平屋建てにしなければ、と思います。

(細谷達則)

測量への準備進む

城北公民館建設 先進地を見学

丸亀市内で地区公民館が設置されていない城北、城西、城乾の三校区のうち城西校区の公民館建設が始まりました。測量のための準備が進み、民

丸亀市内で地区公民館が設置されている城北、城西、城乾の三校区のうち城西校区の公民館建設が始まりました。

城北公民館建設に向けての経過は前号の「ともしび」でお知らせしましたが、その後、測量のための準備が進み、民

測量のための準備が進み、民

簡単に記します。



▲▲売れ行き上々。ほくほく



子供に竹とんぼ作り手ほどき

大いに 楽し ました



おばあちゃんも童心に戻って...



幸福はだれに... サンタは「福」配達人



力作ぞろいの作品展示



消防団員の消火実技。団員募集中です



ホットー息

1月26日に マラソン大会

体協支部員も協力

丸亀城築城400年記念の丸亀ハーフマラソン大会、第51回香川ロードレース大会が一月二十六日、市内のコースで行われます。この大会には体協城北支部員二十一人が協力、声援と沿道の交通整理などに当たります。

「実のある研修」好評

城北婦人会

一年間の婦人会活動は、総会に始まり、生涯学習、人権学習の計画などに加え、五月の日赤募金、九月には敬老会行事に取り組みます。そして十二月は歳末助けあい募金。歳末助けあ



地区敬老会に協力

い募金は、少しでも多く集めて、恵まれない人たちが楽しいお正月を迎えられるように、とがんばっています。平成八年末も皆様のご協力の良い実績を残すことができました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

会員は現在三百十人。任意加入で会費は年額一人四百円。市からの補助はありません。年二回の研修旅行(日帰り)を行っています。実のある研修」と好評。十二月三日、丸亀市で香川県婦人団体連絡協議会主催の西讃ブロック研修会が開かれ盛会でした。会員は、母子愛育班、福祉

百八人が球技に挑む

城北スポーツ少年団



ボールを追う少年たち

昭和三十六年、体育協会婦人部の各支部(十二支部)単位に「スポーツを通じて少年の健全育成を行う」ための組

頑張っています

織として、スポーツ青少年団が結成された。

当地区では「城北スポーツ少年団」と称し、主な活動はサイクリング、水泳、キャンプ、登山、各種競技などで団員数は百六十人を数えた。

市全域の加入団員は三千人を超え、これら青少年を対象に各種競技会も盛んに行われ、体力増強、健全育成に大きな貢献がなされていた。

その後、「子ども会」が急激に増加したため、スポーツ少年団の活動は低調になり、し

ばらくは低迷が続いた。各單位団体からの要望もあり、昭和五十六年に再度、丸亀市スポーツ少年団本部が設置され、本来のスポーツ少年団としての活動が始まり、現在にいたっている。再スタートに当たり従来と異なった点は、種目別に団登録制度となったことである。平成八年度の登録は十三種目五十三單位団、参加者は約千三百人。城北地区ではジュニアバレーボール、軟式野球、サッカー、ミニバスケットボールの四団体百八人が登録し、活発な活動を続けている。

ママ会議、交通安全協議会、市政モニター、明るい選挙推進委員、婦人消防クラブなどに所属しています。数限りない行事に参加、実践、研修を通して健康で明るい社会づくりにまい進しております。

子どもならではの感動

平山保育所長・小野恰子
サザンカの咲く朝の園庭。

登所して来たばかりのAちゃんが「お早よう」のあいさつもそこそこに赤い実をつけた柿の木がけて、まっしぐらに走っていく。パッと数十羽の小鳥が飛び立つ。Aちゃん

はぼう然としてその行く方をじっと見つめている。だれも気づかなかつたこの小鳥たち



手造りの遊具で遊ぶ子どもたち

学園の現場から

の群。Aちゃんにとってすばらしい大発見だった。大人にとっては何でもない事

小春日和の園庭。「この網でお父さんがサワラ捕るんぞ」と言いながら、漁業に使うロープ、網などを利用した父さん手作りのハンモックで遊ぶ子どもたち。父親のぬくもりを感じながら遊びを工夫し、汗を流しながら挑戦する姿がそこにあります。

保育所生活で豊かな体験と感動する心が少しずつはぐくまれていく毎日です。この子どもたちが大きくなった時、ふるさと平山保育所をほこりに思える子に育ってほしいと願っています。

ママさんバレー
城北クラブ
毎週火・金曜日
(変更もあり)
夜8時-10時
城北小学校体育館で
練習しています。
現在、20歳代-60歳代
までのメンバーが在籍。
部員募集中
詳細は、水早まで
TEL22-4607

ご用職人の町「お作事」

〔中の丁〕 風袋町を、西から追って来たので堀の丁から中の丁に移る。ここはお不動さんから南に抜ける通り道で、風袋町の南北道路の中ごろにあるからというこのよう。

〔えこの丁〕 へ餌護の丁とも書く。宝津寺前から南へ突き当たる通りで、餌護と



河野 智人

は当て字のようで、意味は分かっていない。

〔土手の丁〕 えこの丁に比べると分かりやすい。城北温泉の前を南に突き当たる通りであるが、筆者の少年時代の記憶にもある土手が、汐入川に面して南は須藤商店あたりまで続いていた。たしか、松の木などが並んでいたように思う。

〔お作事〕 ただ「作事」ともいった。金光教会の裏から、

大西食品までで、細い道と一部民家が残っている。ここは、藩の作事奉行の管理に属し、建築業務に従事していたご用大工、左官たち



え・青木ゆかり

がいて作業「作事」をした。材木蔵もあったという。

〔寺町〕 今は北平山町の内にある。ここには吉祥院、大善院、弥勒院、威徳寺の四つのお寺が並んでいて、中で大善院の山号は北平山（ほくへいざん）となっている。

東側に吉祥院、大善院、弥勒院と三寺が並び、西側に威徳寺一寺が長い土塀を連ねていて、丸亀の市内でも大変貴重な景観を残している地域であるが、少しずつ面影を変えているのは残念なことである。

この威徳寺の長い塀の下部の石積みの中で、山門の近くの石の中に扇面形がはめ込まれているのが一つあって、子供のころ通学の途

旧正月に縁日「寺町」

中で見つけ、ここには「きつねが住んどんんやぞ」などといったものである。境内へはいった正面のお堂は毘沙門さんで、かつて旧正月の縁日には、暗いうちから初詣りで随分とにぎわったのであった。山門の前あたりに「お宝」を売る掛け店があつて、柳の枝だとか、稲穂だとかに縁起のいい小物をキラキラいっばい下げて「お宝お宝」と売り声もにぎやかに呼びかける。戦中まで続いていたが、物が不足するころから何時の間にか無くなってしまった。

〔三浦〕 昔、御供所町、北平山町、西平山町を合わせて三浦といった。慶長初年に生駒氏が丸亀に築城した時、城下の北の海岸へ、御供所・北の平山・西の平山に住んで居た漁夫たちを宇多津から移住させて、旧名をそのままに町名にしたといわれている。総称していた(三浦)は、明治以後消えたという。(つづく)

帝釈峡で紅葉満喫

城北老人会

城北老人会員が十一月五日、紅葉の景勝地、広島県・帝釈峡を訪ね晩秋の一日を楽しんだ。参加者は七十七人。バス二台に分乗して午前七時半、城北小学校前を出発。曇り空を気にしながらバスは瀬戸大橋を渡る。

十時ごろ上帝釈峡に到着。白雲洞―雄橋間を自由散策。一部の会員は観光馬車に乗って紅葉を楽しんでいた。

昼食後、紅葉橋から遊覧船に乗り神龍湖を巡る。奇岩、奇石の断崖絶壁に紅葉が花を添え、湖面に影を落とす。その美しさには、ただ感嘆するのみ。上陸後、次の観光地、井倉洞に向かった。そのころから雨模様となったため、見学もそこそこに帰途についた。われわれのモットーは「長寿の秘けつは歩くこと。旅行は最良の薬」である。



紅葉盛りの帝釈峡